

昭和初期の風格ただよう 武田邸



昭和25年（1950）竣工であるが、建物の形式、材料、施工技術は戦前のもので、昭和初期の風格を持った建物である。赤瓦を載せた書院造りの木造2階建。1階は西側正門側に応接間を兼ねた洋室がある。南庭側は約600坪の廻遊式庭園と一体となった間取りで、縁側を廻して座敷が並ぶ。2階も縁側を廻し、庭を見下ろす配置になっている。北側の部屋は岩手山を望む肘付窓を持つ。庭園の基礎は江戸時代後期に京都からの庭師の手で作庭されたと言われ、ここは仁王田圃の中の田屋で風光明媚なところであった。入口は表門と常用門の二つがある。旧九十九銀行の設計者の横濱勉の生家で、横濱氏夫人が盛岡に武者小路流のお茶をもたらしたことが縁で、現在でも武者小路流の拠点となっている。平成20年（2008）、土地建物が盛岡市に寄贈され、一般公開されている。

（もりけん本スーパ― ver.2より）

